



CORNER ITALIANO | 公式資料

重要年表

AI の成立から 2050 年の物語上のしきい値まで

事実、要約、規制、物語上の設定

日本語版アーカイブ - 2026 年 7 月 - A4 版

<https://www.corneritaliano.com/ja/2050/resources/>

方法 本書を読み進めるために必要な節目を選び、それぞれを歴史的事実または要約、規制上の事実、物語上の設定、著者の提案として明示します。歴史と規制の項目は資料センターの検索可能な文献資料一覧に対応します。2050 年ごろの場面は予測ではなく物語上の条件であり、本書の提案は根拠と文脈に照らして検証、修正、または放棄されるべきものです。

年・期間	節目と区分
1950 年	歴史的事実。アラン・チューリングは『Computing Machinery and Intelligence』を発表し、「機械は考えられるか」という抽象的な問いを模倣ゲームへ置き換え、観察可能な行動へ焦点を移しました。
1955-1956 年	歴史的事実。ジョン・マッカーシー、マーヴィン・ミンスキー、ナサニエル・ロチェスター、クロード・シャノンがダートマス夏季研究会の提案を作成し、「人工知能」という言葉が新しい研究分野の象徴となりました。
1950 年代末	歴史的要約。フランク・ローゼンブラットのパーセプトロンは、機械が例から学べるという考えを前進させましたが、ハードウェア、データ、手法にはまだ大きな制約がありました。
1966 年	歴史的事実。ジョセフ・ワイゼンバウムは、規則とキーワードによって驚くほど「聞いている」印象を生む簡単なプログラム ELIZA を発表しました。
1969 年	歴史的事実と要約。マーヴィン・ミンスキーとシーモア・パパートは単純なパーセプトロンの限界を分析しました。その後の AI の冬には、約束、資金、計算能力、成果の隔たりも反映されています。
1969 年	インフラ史。ARPANET が二つのノード間で最初のメッセージを送り、パケット交換ネットワークを実証し、より広い通信アーキテクチャへの道を開きました。
1983 年 1 月 1 日	インフラ史。ARPANET が TCP/IP への移行を完了し、異なるネットワークが共通のプロトコル群で通信できるようになりました。ネットワークのネットワークとしてのインターネットにとって決定的な一歩です。
1986 年	歴史的事実。デイヴィッド・ラメルハート、ジェフリー・ヒントン、ロナルド・ウィリアムズは、誤差逆伝播法で多層ネットワークを学習できることを影響力の大きい形で示しました。
1989-1991 年	インフラ史。ティム・バーナーズ＝リーは 1989 年に CERN で World Wide Web を提案し、最初のブラウザとサーバーを開発しました。1991 年には研究室の外へ広がり始め、ネットワークをハイパーテキストで閲覧する道が開かれました。
1997 年	歴史的事実。Deep Blue が 6 局の対戦でガルリ・カスパロフを破り、規則が閉じた領域における計算の力を広く可視化しました。
1990 年代から 2000 年代初頭	歴史的要約。インターネット、Web、モバイルサービスによって、ネットワークは専門環境から日常の基盤へ変わり、記録、ID、通信、サービスは相互接続システムへの依存を深めました。
2012 年	歴史的事実。AlexNet が GPU を用いて ImageNet 競技で大幅に優れた結果を示し、画像認識における深層学習の加速を可視化しました。
2017 年	歴史的事実。『Attention Is All You Need』が Transformer アーキテクチャを提示し、後に大規模言語モデルと多数の生成システムの中核となりました。
2022 年 11 月 30 日	歴史的事実。ChatGPT が研究プレビューとして一般公開され、対話型 AI を日常的な規模で利用できるようにしました。
2010 年代と 2020 年代	歴史的要約。クラウド、データセンター、API、プラットフォーム、接続機器が組み合わさり、仕事、医療、行政、移動、情報が依存する、ますます見えにくい基盤となりました。
2024 年 8 月 1 日	規制上の事実。AI Act として知られる規則（EU）2024/1689 が発効しました。規定は段階的に適用され、この日にすべての義務が同時に始まったわけではありません。
2050 年ごろ	物語上の設定。テーマ別の小景は複数年にわたります。14 か月と 18 か月の間隔はアシャの物語、6 か月後の再審査はマルタとリディア、そしてダヴィデに属します。将来の日付、費用、時間、数量、能力、地政学的配置は物語の条件であり、予測や観測値ではありません。範囲を限定した試験、中止した計画、採用しなかった計画も含まれます。
本書の提案	著者の提案。2050 年テスト、証明の最小化、運用ツイン、動的ライセンス、死後のデジタル指示は、検証し、修正し、必要なら放棄すべき道具です。既成事実、一様な法律、予測ではありません。